

自ら考え、進んで行動し、ともに学ぶ江北っこの育成

～江原北小学校「炭作り活動」の実践を通して～

美馬市立江原北小学校 教諭 小笠 博之

1 はじめに

本校は、美馬市北東部に位置し、阿讃山脈の豊かな自然に囲まれた全校児童8名の小規模校である。児童は地域からのおしめない支援を受け、学年のわくをこえ、明るく元気に協力して様々な活動に取り組んでいる。それは小規模校の強みでもあるが、一方では、主体性が育ちにくく、感謝する気持ちが希薄になっている。そこで、昨年度から「自ら考え力いっぱい取り組む江北っこ」「進んで行動し最後までやりとげる江北っこ」を中核に据えた教育に取り組んでいる。

教育活動の中心には、本校の総合的な学習の時間の「炭作り活動」がある。15年もの間受け継がれてきたこの活動を原点から見直すことによって、地域に生きる人々の思いやその人たちとのつながりに気づき、「してもらう活動」から「主体的に取り組む活動」へとつながっていくと考える。また、1つ1つの活動を関連づけ、点ではなく線となつてつなげていくことで、自ら考え、進んで行動し、ともに学ぶ江北っこの育成につながっていくと確信し取り組んでいる。

2 研究の内容

テーマを進める上で以下の「主体性」と「協働」の二つの視点から取り組んだ。

- (1) 江北っこの主体性を引き出すための「炭作り活動」の見直し
- (2) より多くの人とつながる協働的な活動

3 活動の内容

- (1) 江北っこの主体性を引き出すための「炭作り活動」の見直し

○炭作り活動の原点からの学び直し

児童に学校の自慢を尋ねると、「炭作り活動」と返ってくる。しかし、児童は、「炭作り活動」に取り組み始めた原点については十分理解できていなかった。そこで、校内にある資料を学び直すとともに、この活動を長年支えてくださっている地域の炭焼き名人から当時の様子を学ぶ活動を取り入れた。「炭作り活動」は、15年前の本校の防災学習がきっかけである。当時、校区には、土砂崩れ等の危険箇所が散在していた。それを防ぐ方法の1つに、山の手入れがあった。山の手入れとは、森林の間伐であり、多くの木を処分しなければならなかった。そこで間伐材を有効に活用しようと炭焼きが始まった。当時の児童と職員、地域の方々によって本校に炭焼き窯が作られ、現在の炭作りにつながっている。

「炭作り活動」の原点を学び直した児童は、この活動が自分たちの命を守るだけでなく、地域の人々と深くつながっていることを学んだ。その後の活動では、指示され動いていた児童が、自ら主体的に動き始めた。中には、炭焼き名人の炭窯への火入れに興味をもち、休み時間に手伝いをする児童や、名人と同じように煙の様子に注目し、炭の出来具合を気にする児童もいた。さらに、児童からは「炭作り活動」のすばらしさを多くの人に広め、今後も残していきたいという意見が出始めた。

○「炭作り活動」を広めていくためのキャラクター作り

4年生の児童から、「炭作り活動」を広めるために「キャラクターを作ろう。」という提案があり、全校で取り組むことになった。キャラクターを募集し、「炭ボーイ」というキャラクターが選ばれた。頭は炭窯の屋根をモチーフとした帽子をかぶり、手にはのこぎりや間伐材が握られ、そこには炭作り活動の原点を知った児童の思いがこめられていた。「炭ボーイ」が誕生したことにより、あらゆる場面で「炭ボーイ」を活用した取り組みが児童から提案され、その活動は互いに刺激しあい、高めていくものとなった。

※炭ボーイを活用した取り組み

- ・炭ボーイの着ぐるみ作成（4年生）
- ・炭ボーイを使った紅白応援旗（5年生）
- ・「炭ボーイ」の着ぐるみを使っての炭製品販売
- ・「炭ボーイ音頭」を作ろう（2・4年生）
- ・「ペッパーくん」と「炭ボーイ音頭」を踊ろう（5・6年生）
- ・運動会競技「炭ボーイレース」
- ・炭ボーイシールの作成（6年生）

(2) より多くの人とつながる協働的な活動

○イラストレーターとの協働的な学び

「炭作り活動」を広める「炭ボーイ」を、より自分たちの思いのこもったキャラクターにするために、美馬市出身のイラストレーターの方に原案の手直しを依頼することになった。国語科「お願いの手紙を書こう」の学習と関連させたことで、「自分事」として積極的に取り組む姿が見られようになった。特に「炭ボーイ」を考案した児童は、キャラクターにこめた思いとともに普段より長い文章を書くことができた。イラストレーターの方に「原案」と「お願いの手紙」を送付したところ、完成版が届いた。今回のイラストレーターとの協働的な活動から、キャラクター作成で大切にしたい点や人目を引くための工夫した点等を学び、児童は今後の炭販売での看板やパンフレット作りにつながっていくことを確信したようだった。

○「炭作り活動」PR大作戦

「炭作り活動」をより多くの人に広めようと5・6年生ではパンフレット作りに取り組んだ。パンフレットの内容を話し合う中で、活動の意義や炭の作り方、炭の効果だけでなく、名人なくして江北の「炭作り活動」はないという感謝の思いから「炭焼き名人を紹介したい」という提案があり取り組んだ。炭焼き名人を中心としたパンフレットは全員で納得するまで練り直した。

児童は、完成したパンフレットを活用し、「炭作り活動」を広めたいと考え、県外へのバス遠足を利用することにした。訪問する施設にパンフレットを置いてもらえるよう交渉し、見学地では児童自らパンフレットを観光客に手渡し、自分たちの思いを熱心に伝えていた。児童たちのこの活動は江北の炭作りに心から誇りがもてたからであると確信した。

○ペッパーくんと踊ろうーICT教育アドバイザーの支援ー

美馬市と企業が提携して本校に1か月間プログラミング学習教材「ペッパーくん」の貸し出しが行われた。5・6年生は、2・4年生が製作した「炭ボーイ音頭」を「ペッパーくん」と共に踊ることを立案した。ロボットである「ペッパーくん」に「炭ボーイ音頭」の動きをプログラミングすることには限界があったが、ICT教育アドバイザーの方にご指導をいただきながら、本来の振付の動きに近づけようと児童たちは粘り強く取り組んだ。また、振り付けだけでなく、歌詞の提示、合いの手等のプログラミングも組み合わせ、それらすべてが連動するよう細かな調整をして、完成にいたった。2・4年生は、歌って、踊って、合いの手を入れる「ペッパーくん」の姿を見て歓声をあげ5・6年生はその姿に喜び、1年間の「炭作り活動」の集大成となった。この一連の「炭作り活動」の成果は、学習発表会で保護者や地域の方々に披露され、「炭作り活動」への誇りと感謝、そして残しつつ伝えていくことへの決意を伝える機会となった。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 江北っこの主体性を引き出すための「炭作り活動」の見直し

成果 ・活動の意義や目的を理解し、意識させることでより主体的に学習に取り組むようになった。
・「炭作り活動」の原点を学び直すことで、積極的に意見を交換し合えるようになり、自分たちの活動としてさらに誇りをもてた。

課題 ・今後、児童の減少により、「炭作り活動」の継続が困難になると考えられる。「炭作り活動」を江原北小学校の伝統として伝え、継続するためにも単元計画の見直しが必要である。

(2) より多くの人とつながる協働的な活動

成果 ・新しい分野への挑戦によって、互いに刺激し合い、活動を発展させることができた。
・他教科と関連づけて学習することで、教科横断的な学びの充実が図られた。
・自分たちの思いを実現させるために様々な分野の専門家の方々との協働的な学びにより、活動の内容が充実し、達成感を味わうことができた。

課題 ・自分たちの思いや考えを発信する際に、相手の立場や考えを十分に理解できずに、自分たちの考えが先行する場面がある。そこで、多様な考えやそれぞれの立場を意識した表現ができるような江北っこを育てたい。